

平成 26 年度 事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人理想教育財団

平成 26 年度実施事業の内容

【A】調査・研究事業【48,358,299 円】

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究 (3,315,055 円)

1. 仙台市立片平丁小学校校内研修「学級力向上プロジェクト」に、講師として田中博之先生(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)を派遣した。出席者 15 名 (4 月 10 日)
2. 広島市立己斐小学校校内研修「学級力向上プロジェクト」に、講師として田中博之先生を派遣した。出席者 18 名 (5 月 16 日)
3. 仙台市教育センター主催の土曜講座に、講師として柵木弓先生(岡崎市立藤川小学校)を派遣した。「学級経営に生かす学級づくり 学級通信の作り方と活用について」 出席者 30 名 (6 月 21 日)
4. 埼玉大学教育学部 2 年生英語科専攻の学生を対象に学級通信づくり講習会を開催、講師として吉成勝好先生を派遣、作品集の作成を支援した。出席者 60 名 (7 月 15 日)
5. 多賀城市教育委員会主催の平成 26 年度第 2 回初任者・講師等対象研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。「学級力向上プロジェクトの進め方」出席者 42 名 (8 月 4 日)
6. 新潟市立新潟小学校の平成 26 年度研究発表会において、田中博之先生の依頼によりブックレット「学級力を高めるはがき新聞の活用」を配布し支援した。出席者 300 名 (9 月 26 日)
7. 京都市小学校教育研究会の幹事研修会及び青年教員研修会に、講師として森山卓郎先生(早稲田大学文学学術院教授)を派遣した。「楽しくて力がつく言語活動の充実へ」出席者 250 名 (9 月 26 日)
8. 福岡県人権・同和教育研究大会にて田中博之先生の講演を支援した。「子どもの総合学力を育てる」 出席者 1,300 名 (10 月 18 日)
9. 広島市教育センター主催の新任学年主任研修に、講師として田中博之先生を派遣した。「一人一人を大切にした学級づくり」 出席者 100 名 (10 月 28 日)
10. 宮城県教育委員会主催の宮城県小・中学校長研修会にて田中博之先生の講演を支援した。「教科学力と学級力を共に育てる学校経営のあり方」 出席者 200 名 (10 月 29 日)
11. 東洋大学文学部教育学科の教職実践演習「学級通信づくり」授業に、講師として吉成勝好先生を派遣した。 出席者 50 名 (11 月 17 日)
12. 金沢星稜大学人間科学部において通信づくり講習会を開催。講師として吉成勝好先生を派遣した。 出席者 30 名 (11 月 26 日)
13. 大阪総合保育大学児童保育学部の教職実践演習授業にて講師の徳永加代先生(堺市立新浅香山小学校)を支援した。「心をつなぐ通信づくり」 出席者 94 名 (11 月 3 日)
14. 福岡県古賀市立古賀西小学校研究発表会にて田中博之先生の講演を支援した。「子ども

の総合学力を育てる」 出席者 230 名 (11 月 19 日)

15. 広島市立五日市南中学校地域公開授業研究会に、講師として田中博之先生を派遣した。

「学級力を高める授業づくり・集団づくり」 出席者 200 名 (11 月 21 日)

16. 東京都杉並区立杉並第九小学校研究発表会において講師の田中博之先生「学級力向上プロジェクトの実践」を支援した。 出席者 210 名 (11 月 28 日)

A-2 教師による自作教材の調査・研究 (458,295 円)

2 色プリントの効果的利用に関する調査・研究のまとめとして制作した「2 色プリントの活用事例」を配布した。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 (44,584,949 円)

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

学習指導要領に準じ各教科を通した「言語活動の充実」を目的として、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法としてはがき新聞づくりを推奨。また、自分が体験、経験したことを単に新聞としてまとめるだけでなく、「単元を貫く言語活動」として「ごんぎつね」(小学校 4 年)、「少年の日の思い出」(中学校 1 年)等、教科書の物語文の読み取りで、はがき新聞を活用する授業を提案した。

今年度の実践申込校は 84 校 (小-52 校、中-18 校、高大-14 校)で、現在、実践協力校は 255 校 (小-165、中高大-90 校)、原稿用紙等の助成校は 317 校 (小-218 校、中高大 99 校)で、合計 572 校となった。(全国の小学校 20,651 校、中学校 10,476 校、計 31,127 校とすると、はがき新聞実践校の率は 1.83%となった)

その実践研究の成果の一部は、実践レポートとして機関誌「季刊理想」に掲載した。

[主な活動内容]

1. はがき新聞研究会活動

①平成 25 年度実施した「ごんぎつね」(小学校 4 年)と、「少年の日の思い出」(中学校 1 年)の実践事例集を作成し、「単元を貫く言語活動」として授業の中での活用を各実践校へ告知した。

②読書推奨の実践事例として「読書のすすめ-小学校編-」を作成した。

③朝日新聞社が運営するウェブサイト「朝日 Teachers' メール」に、はがき新聞づくりの教育効果や実践例を紹介した。

④はがき新聞満足度調査アンケートの実施と調査結果を検討した。

2. はがき新聞の教育効果について研究委託

①研究テーマ：コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究—「言語活動の充実」へ向けての「はがき新聞」等の利用について—

研究委託：森山卓郎教授(早稲田大学文学学術院)

研究目的：はがき新聞をコンパクトテキスト産出の取組として位置づけ、学校教育の様々な局面において如何に応用できるかを考えるとともに、その効果を測定する。

実施期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（平成 25 年より 2 年目）

本年度は、はがき新聞研究会と連携して、児童・生徒を対象としたはがき新聞づくりの満足度調査を実施した。

一年次の研究について、森山卓郎先生より「コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究」と題し研究報告書が提出された。

②研究テーマ：子どもがはがき新聞を通して、学級力向上プロセスを報告する授業方法の解明（学級力向上プロジェクト）

研究委託：田中博之教授(早稲田大学教育・総合科学学術院)

研究目的：小・中学校における学級経営の新しい方法として、児童生徒が自らの学級力向上の取組みについて、はがき新聞を作成・発行する力を育てる授業のあり方を明らかにすることをねらいとする。

実施期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（平成 23 年より 4 年目）

三年次の研究について、田中博之先生より「子どもがはがき新聞と壁新聞を通して学級力向上プロセスを報告する授業方法の解明」と題し研究成果報告書が提出された。また、実践事例のブックレット「学級力を高めるはがき新聞の活用」を作成し配布した。

本年度は、12 月 27 日「平成 26 年度第 1 回学級力向上研究会」が開催され関東地区の先生方 14 名が出席、3 月 22 日「平成 26 年度第 2 回学級力向上研究会」が開催され関西地区の先生方 12 名が出席し、今年実践した学級力向上プロジェクトの報告が行われた。

3. 教育フォーラム開催

平成 27 年 1 月 25 日、東京・時事通信ホールにて今年度の調査・研究結果の発表の場として「平成 26 年度理想教育財団教育フォーラム」を開催した。文部科学省教科調査官 水戸部修治先生の基調講演「単元を貫く言語活動とはがき新聞」に続き、森山卓郎先生（早稲田大学文学学術院教授）を始め 5 名のパネリストによる「言語活動の充実へむけて－はがき新聞などのコンパクトテキストの利用－」をテーマとしたパネルディスカッションを開催した。参加者は 220 名。

4. その他（授業、講習会、研修会等）

①石川県教育工学会第 1 回学習会にて、「PC を使ってはがき新聞を作ろう」を支援した。講師：佐藤幸江先生（金沢星稜大学教授） 出席者 30 名（5 月 25 日）

②西東京市東伏見小学校のはがき新聞づくり授業に、講師として斉藤眞弓先生を派遣した。制作課題「運動会の招待状をはがき新聞でつくろう」 3 年生 2 クラス 68 名（6 月 2 日）

③フェリス女学院大学 2 年～4 年生情報センター教職課程としてはがき新聞講習を実施、講

師として吉成勝好先生を派遣、作品集の作成を支援した。 出席者 39 名 (7月2日)

④埼玉大学教育学部美術専攻の学生を対象にはがき新聞づくり授業を実施、講師として吉成勝好先生を派遣、作品集の作成を支援した。 出席者 22 名 (7月7日)

⑤千葉県の図書館関係職員ならびに図書委員夏期研修会で、講師の丸山明美先生(葛飾区立本田中学校)のはがき新聞づくり研修会を支援した。 出席者 55 名 (7月29日)

⑥広島市教育センター主催の教職経験 6 年次教員研修に、講師として宮前嘉則先生(桐生市立清流中学校)を派遣した。「学習指導に活かすはがき新聞」 出席者 141 名 (8月18日)

⑦兵庫県の国語研究会「ことばと体験の会」第 12 回ワークショップセミナーにて、教師のためのはがき新聞活用講座を支援、講師として今宮信吾先生(関西大学初等部)を派遣した。参加者 40 名 (8月18日)

⑧東洋大学文学部教育学科の教職実践演習「はがき新聞づくり」に、講師として吉成勝好先生を派遣支援した。 出席者 50 名 (11月10日)

⑨第 52 回小中学生記者の文化財取材コンクール(京都古文化保存協会主催)を後援、はがき新聞の部において理想教育財団賞を授与した。 出席者 50 名 (11月17日)

⑩香川大学教育学部の国語科教育法授業にてはがき新聞づくりを実施、講師として吉成勝好先生を派遣した。 出席者 20 名 (11月18日)

⑪早稲田大学教職大学院の教職実践演習にてはがき新聞づくり講座を開催、講師として吉成勝好先生を派遣した。出席者 25 名 (12月8日)

⑫フェリス女学院大学教育学部国語科専攻学生対象のはがき新聞づくり授業を前期に引き続き実施、講師として吉成勝好先生を派遣した。 出席者 39 名 (1月14日)

⑬西九州大学こども学部の金久慎一教授が担当する一年間の教職課程のまとめとしてはがき新聞を書く授業を支援した。 出席者 40 名 (1月20日)

⑭聖心女子大学教育学科にて、はがき新聞づくり講師の羽賀絹恵先生の授業を支援した。出席者 52 名 (1月23日)

【B】情報提供事業【20,025,665 円】

B-1 教育関連出版物の刊行 (2,083,860 円)

通信づくりに役立つ「学校と法律」を刊行した。

B-2 研究情報誌の発行 (13,281,623 円)

機関誌「季刊理想」の発行。

多くの教育関係者に読んでもらうため、幅広い分野の記事、PTA 広報、東日本大震災被災地の学校の状況等を掲載した。

B-3 ホームページの運用 (4,660,182 円)

財団事業を詳細かつタイムリーに報告する様配慮し、通信づくり、はがき新聞の活用事例等の掲載を充実した。

(参考)平成 27 年 3 月度アクセス状況：月間訪問者数 11,166 人 (昨年対比+33.58%)、ページビュー数 36,351 件 (昨年対比+32.2%)

「はがき新聞をつくろう」「通信タイトルアイデアバンク」へのアクセスが多い。

【C】助成・顕彰事業【44,334,055 円】

C-1 後援・支援事業 (3,908,758 円)

1. 「書」教育の推進策として書家指導による自由書制作出前授業を実施、こども達が事前を選んで漢字をカラーインクで自由闊達に竹紙に表現した。制作した作品の中から優秀作品が選ばれ、第 22 回「臨書と自由書作品展」へ応募された。

出前授業の実施校：新宿区立江戸川小学校 6 年生 15 名 (5 月 28 日)

2. 第 22 回「臨書と自由書作品展」(主催:児童の書を考える会 代表 高橋里江)を共催した。

期間：平成 26 年 8 月 24 日～27 日 (4 日間) 会場：東京芸術劇場 5 階 ギャラリー

展示テーマ：「～日本・ポーランド 100 年 道～」 後援：東京都教育委員会 協力:中越パルプ工業株式会社、富士通株式会社

昨年度よりタイトルを「コンクール」から「作品展」に変更、児童生徒の作品と一般・指導者の作品展示にもウエイトをおく展覧会とした。

6 月 29 日、中越パルプ株式会社東京本社会議室で審査会を開催、コンクール対象の児童生徒の応募作品から東京都教育委員会賞 5 点、理想教育財団賞 16 点、他各賞を選定した。

8 月 24 日から東京芸術劇場(東京豊島区)ギャラリーにて作品の展覧会を開催。118 作品を展示し、コンクールの表彰を随時会場にて実施した。期間中の来場者は 668 名。

3. 横浜市立学校総合文化祭に協賛、ポスター制作等の支援をした。

4. 広島市教育委員会主催「文化の祭典」に対し、ポスター制作等の支援をした。

C-2 新聞教育の普及・振興 (4,046,506 円)

1. 第 57 回全国新聞教育研究大会千葉県市川大会(主催:全国新聞教育研究協議会他)を後援した。出席者約 420 名 (8 月 1 日～2 日)

大会主題：「人を育て、心をつなぐ新聞教育～書く力を育む新聞教育の追究～」

会場：市川市文化会館、市川市立大和田小学校

大会の記念講演「学校教育と法律～いじめの構造とその対応～」の講師として、弁護士神谷信行先生を派遣した。また、当日発行した大会速報新聞の印刷を支援した。

2. 横浜市中学校教育研究会新聞教育部会平成 26 年度総会での記念講演の講師として吉成

勝好先生を派遣した。会場：横浜市立中和田中学校 出席者 40 名 (5月7日)

3. 神奈川県私立小学校の新聞教育講習会「第 48 回まめ記者講習会」宮城県石巻市開催に対し、印刷機と関連消耗品の支援をした。出席者 4 年～6 年生 126 名 (8月4日～7日)

4. 横須賀市市民大学講座で、講師の臼井淑子先生(横須賀市立田戸小学校)の「市民のための新聞活用講座」を支援した。出席者 19 名 (10月2日)

5. 第 49 回北九州市小中学校新聞コンクールを後援し、理想教育財団賞を授与した。(2月28日)

6. 第 41 回東京都小・中学校新聞コンクールを後援し、入賞作品集制作等を支援した。(2月28日)

7. 第 64 回全国小・中学校・PTA新聞コンクールを後援し、理想教育財団賞を授与した。(3月7日)

C-3 日本人学校等への支援・助成 (3,631,680 円)

1. 海外日本人学校等への児童図書寄贈

海外日本人学校(補習授業校を含む)10 校に対し日本の図書を寄贈した。公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により実施。

[寄贈先]

チューリッヒ日本人学校(スイス)、ブラッセル日本人学校(ベルギー)、ワルシャワ日本人学校(ポーランド)、フィレンツェ補習授業校(イタリア)、ニューカレドニア補習授業校(仏ニューカレドニア)、オークランド補習授業校(ニュージーランド)、ワシントン補習授業校(アメリカ)、グレーターヒルズ補習授業校(アメリカ)、ハンブルグ補習授業校(ドイツ)、キエフ補習授業校(ウクライナ)

2. ポーランドとの国際交流として臨書と自由書作品集を制作した。タイトル「SHO - 書」日本・ポーランド 100 年「道」

C-4 コンクールの開催・顕彰 (32,747,111 円)

第 10 回「プリントコミュニケーションひろば」は、総応募数 小学校の部 326 作品 中学校の部 258 作品 高校の部 40 作品 その他 8 作品 合計 632 作品であった。

一次審査会は、4月12日(小学校の部)開催し 34 作品を選抜、4月26日(中学校・高校の部)を開催し 34 作品を選抜し、5月17日最終審査会を開催、各賞の作品を選定した。

最優秀賞・理想教育財団賞には、岐阜県山県市立伊自良中学校 村橋一成先生の学校だより「学校通信 釜ヶ谷」を選定。新聞形式の基本を備えた完成度の高い編集レイアウト、さらに A3 サイズの用紙を使用した迫力ある作品と高く評価された。

6月24日、審査員代表として吉成勝好先生と酒井専務理事が伊自良中学校を訪問し、最優秀賞(理想教育財団賞)の受賞を報告した。

8月22日、東京・有楽町朝日スクエアにて、第 10 回「プリントコミュニケーションひろば」

の表彰式を開催。第10回を記念して受賞者を東京に招待し表彰式を開催した。当日の出席者は受賞者31名（欠席5名）審査員30名。

また、第11回「プリントコミュニケーションひろば」の作品募集を開始し、平成27年1月2日～3月31日まで応募を受付けた。

【財団設立30周年記念事業】【11,437,198円】

1. 平成26年8月23日、東京・有楽町朝日ホールにて財団設立30周年記念講演会を開催した。講師として北法相宗清水寺執事補の森清顕先生を迎え、「清水のこころ」と題して講演をお願いした。講演会への出席者は320名、引き続き開催した懇親会には、講師の森清顕先生他多くの方が参加され懇親を深めた。講演内容は、機関誌「季刊理想」秋号に掲載、全講演録を冊子化し配布した。

2. 記念誌「公益財団法人理想教育財団 設立30周年の歩み」を刊行した。

その他の事項

【会議の開催】

1. 理事会・評議員会

第14回理事会 5月19日

第4回定時評議員会 6月21日

第15回理事会 6月23日（決議の省略による）

第16回理事会 7月8日（決議の省略による）

第17回理事会 11月28日

第18回理事会 3月27日

2. はがき新聞研究会

はがき新聞研究会（関東部会）情報交換会 6月11日

はがき新聞研究会分科会 7月28日

はがき新聞研究会（関西部会）情報交換会 8月27日

はがき新聞研究会（関東部会） 8月30日

はがき新聞研究会（関西部会） 9月14日

はがき新聞研究会（関東・関西合同部会） 1月24日

はがき新聞研究会（関東部会） 3月28日

はがき新聞研究会（関西部会） 3月29日

3. プリントコミュニケーションひろば関係

最終審査員会議 11月21日

以上